1670年西蒲原地震（四万石の地震）の被災地

河内一男（新潟薬科大学）

The Stricken Area of the 1670 West-Kanbara Earthquake (Shimangoku Earthquake)

Kazuo Kawauchi (Niigata University of Phermacy and Applied Life Sciences)

§１　はじめに

越後平野の近代観測以前の地震活動は，宇佐美龍夫の『総覧』によれば寛文十年（1670年，M6.3/4）と文政十一年（1828年，M6.9）の二つのM7弱クラスの被害地震が知られている．このうちの前者の地震についてはこれまで全体像が不鮮明であった．それは記録が少ないことの他に，関連史料に発生時期と場所の混乱があったこと，本来被災地を示す「四万石」という語句が文字面のまま石高として解されていたこと，などによるものであった．

§２　四万石の意味

河内・大木（1996）は村上領・新発田領関係記録，徳川実紀及び各地郷土史等を分析して，地震の発生が寛文十年五月五日であることを明らかにした．また『新潟県史通史編3』中の記述をもとに，当時の村上領主榊原家江戸屋敷日記の寛文十年五月十四日と同八月十日の条にある四万石という語句がそれ迄理解されていた一般名詞（石高）ではなく，正しくは固有名詞（領地名）であることを指摘した．そして震央を当時四万石と呼ばれていた旧西蒲原郡東部地域に修正し，この地震を「西蒲原地震」と呼んだ．しかし，新潟県史に四万石についての出典がなかったこともあって，これまで『総覧』他の地震資料集の修正は留保されてきた．

§３　これよりして四万石領とはいひけり　―『折たく柴の記』―

河内（2008）は，新井白石『折たく柴の記』の越後国村上領百姓濫訴事件を記述した正徳元年（1711年）の文中に四万石領という記述があることを指摘した．この時期の越後村上領は領主の入れ替わりが激しく，家格に応じて領地も頻繁に変更された．榊原家の前の領主の松平家が慶安二年に入封する際，幕府はそれまでの11万石に加えて天領であった旧三島郡・旧西蒲原郡の一部約4万石分を加えて15万石格の松平家（榊原家も15万石）に充てた．そのため，領民は新たに村上領となったこの地域を「四万石」と呼ぶようになった（新潟県史）．

新たに見出した『折たく柴の記』の記述は次のようである．

六十年の前，松平大和守直基村上の城を賜りし時，三島蒲原等の郡にして四万石の地を加らる．これよりして土俗其地を称して四万石領とはいひけり．

ここでは60年前〔正確には62年前の1649年（慶安二年）〕の領地替えから使われるようになったと記されている．白石と老中間の公式文書「ご下問」「意見書」にも使われているようだから，たとえ俗称から発したものであっても当時通用していた領地名であったことになる．したがって，41年前の1670年（寛文十年）に書かれた榊原家江戸屋敷日記の四万石が意味していることは明白である．

百姓濫訴とは四万石の領民が村上領から天領へ戻ることを幕府に願い出た越訴である．騒動は獄死者まで出すに至ったが白石の意見書によりその後穏便に解決された．このときの領主松平家（慶安とは別）は1717年に転封し，その後の領主（1720年まで間部家，以後幕末まで内藤家）は5万石格であったため，結果的に領民の希望通り四万石は天領に復してその呼称も消滅することになる．悲惨な過去は早く忘れたかったのだろうか．現在地元には地名も伝説も残っていない．

§４　震源域は四万石のうちの中ノ口川左岸

『榊原家江戸屋敷日記』の当該2項の原文（上越市立高田図書館所蔵）を示す．

（五月）十四日庚午　天陰是日従村上飛脚来去五日於村上大地震併御城中御家中町中無別条上川四万石之内百姓家五百三軒頽死人十三人馬二匹田畠荒植田ユリ込也

（八月）十日甲午　天陰是日五月五日村上大地震付四万石之内家数五百三十三軒頽申付彼百姓共手前不罷成候付一軒ニ金子壱分充被下之可然由申遣

上川とは，村上の城付き領を下川と呼んだのに対する，新発田領で分断された領地の呼称である（新潟県史）．また，八月十日の項で「上川」が外れて「四万石」のみになっているのは，五月の項は速報であったのに対し，八月の項は被害調査が十分に済んだあとの確定報のため被災地が特定されたことを意味する．この地震による被災の中心地は四万石と呼ばれた領地であった．この地震は平野直下型なので，被災の中心地を震源域に近似できる．震源域は河内・大木（1996）に従い四万石領のうちの中ノ口川左岸（現在の新潟市西蒲区東部・南区西部地域）付近，規模は宇佐美の『総覧』に従いM6.3/4とする．

§５　地震空白域

越後平野は日本海東縁変動帯（羽越地方沿岸大規模地震多発域）と信濃川地震帯（信越地方の中小規模地震頻発域）の結節部に位置する．近年，平野周辺において，1961長岡M5.5，1964新潟M7.5，1995新潟県北部M5.5，2004新潟県中越M6.8，2007新潟県中越沖M6.8が発生した．これに併せて，江戸期にM7弱級の被害地震が158年の間隔で繰り返されていた事実は，現在この地に第1種と第2種の地震空白域が形成されていることを示唆している．